



山口 雄大 さん (30)

# まくひとしごと 枕崎 × 人 × 仕事 No.24

## 枕崎水産加工業協同組合 / 立神本町

「枕崎 × 人 × 仕事」では、枕崎にあるさまざまな仕事と、その仕事に携わる人を紹介します。今回は、枕崎水産加工業協同組合取材しました。



鯉節生産量日本一に輝き続けている「かつおのまち」枕崎市。今回は、かつおのまちの鯉節製造を支え続ける枕崎水産加工業協同組合に務める山口雄大さん取材しました。本市出身の山口さんは、桜山小・中学校を卒業後、枕崎高校へ進学しました。自分の生まれ育ったまちで働きたいと、高校卒業後に枕崎水産加工業協同組合に就職しました。

組合の主な職場は、商品の販売や経理等を行う事務所、原料や商品を管理する冷蔵庫、魚の残さいを魚粉や魚油に再資源化する施設などがあります。山口さんの主な仕事内容は、鯉節の原料となるカツオの保管と管理。枕崎漁港で船から水揚げされた原料のカツオは、鮮度を保つためマイナス25℃の大型冷凍庫で保管され、組合員である鯉節製造工場の発注に応じて出庫します。

はじめのうちは、マイナス25℃という、経験したことのない寒さの中で作業に慣れるのが大変だったという山口さんですが、日々の業務で冷凍庫を扱うことから、その経験と努力により、国家資格である第三種冷凍機械責任者を取得しました。現在は保管事業部の第二冷蔵庫長として、冷蔵庫のメンテナンスなどの保守業務も行い、リスクマネジメントにも貢献しています。「機械のことについては、専門的に学んだことはなく、勉強は大変でした。また、多くの材料を保管する冷凍庫に問題があれば、損失も大きいため、伴う責任も大きくなります。しかし、資格を取得したことをきっかけに任される仕事も多くなり、やりがいを感じるようになりまし」と話します。

休日は、バレーやゴルフ、キャッチボールなど体を動かすのが楽しみだという山口さん。「組合の仕事を通して、地元枕崎に貢献していきたい」と話します。



いま 今 愛沙 さん

地域おこし協力隊 活動レポート

# 協力隊が行く!

今年度、新たに2人の協力隊員が着任しました。今回は新協力隊の2人を紹介します。



なかむらりんね 中村琳音 さん 配属先 枕崎市観光協会 (お魚センター内)

大阪府門真市出身の今さんは、女子硬式野球のスポーツ特待生として神村学園に入学。高校3年生夏の全国大会では、準優勝に輝きました。進学した埼玉県の尚美学園大学では全日本選手権で優勝し、アマチュア日本一に。その後一般企業に就職した傍ら、埼玉西武ライオンズ・レディーズでプレイしていました。

枕崎に興味を持ったきっかけは、神村学園でお世話になった橋本監督から、スポーツによる地域おこし協力隊という働き方を勧められたことでした。

「スポーツ中心にはなりますが、私の持っている力、これからどんどん溢れ出てくるであろう力を全て出し切り、枕崎を盛り上げられるよう精一杯頑張ります。今後活動をしていくにあたり、枕崎市民の皆さまとお会いする機会が増えてくると思いますが、その際はたくさんお話をできればと思っています。よろしくお願いします!」と話す今さん、スポーツの力で枕崎を元気にしてくれることを期待しています。

南さつま市出身の中村さんは、陸上競技のスポーツ特待生として鹿児島高校に入学、卒業後千葉商科大学へ。大学では、山武市特別応援学生として行政と一緒にまちおこしや商品開発に取り組んだことや、学童保育のボランティア活動を通して、地域に寄り添い魅力を伝える経験をしてきました。

枕崎に興味を持ったきっかけは、小さいころに訪れた港まつりで「大渋滞の車の中で、建物の間から見えた三尺玉がすごく印象的だった」という中村さん、協力隊の募集要項にあった「港まつりの企画・運営」の内容を見て、すぐに応募を決めました。

「これから、枕崎の知られざる魅力を地域の方たちと協力しながら地域内外に向けて発信していきたいと思っています。新社会人ということもありまだまだ未熟な部分もありますが、もし街中で見かけた際には、「りんぼう」と気軽に話しかけてください!」と話す中村さん、これまでの経験を活かし、枕崎の魅力を広げてくれることを期待しています。



## スポーツ・文化 イベント情報

南浜館  
開 9:00 ~ 17:00 ※入館は16:30まで  
休 毎週月曜日 ※月曜日が祝祭日の場合は翌日  
問 スポーツ・文化振興課 TEL72-9998

### 第68回県美展南薩地区展

5月に鹿児島市の市立美術館、黎明館で開催される「第68回県美展」の南薩地区関係作家の入賞入選作品を展示する「県美展南薩地区展」を開催します。

- 会期 5月29日(日)～6月12日(日) ※月曜日休館
- 会場 南浜館(第1展示場)
- 展示内容 第68回県美展に入賞入選した南薩地区関係作家の洋画、日本画、写真、彫刻、工芸、デザインの作品を展示

### 枕崎せんじ会小品展

枕崎の絵画グループ「枕崎せんじ会」の洋画、水彩画などの作品を展示します。

- 会期 5月29日(日)～6月12日(日) ※月曜日休館
- 会場 南浜館(市民ギャラリー)

### 第3回枕崎国際芸術賞展 今秋開催!



- ＜審査員＞(敬称略)
- 絹谷幸二 (画家・日本芸術院会員・東京藝術大学名誉教授)
  - 保科豊巳 (画家・東京藝術大学名誉教授)
  - 河口洋一郎 (アーティスト・東京大学名誉教授)
  - 上原利丸 (染色アーティスト・東京藝術大学美術学部教授)

## 市長

# コラム

vol.37



### 説明責任

SDGs 持続可能な開発目標のゴール12に「つくる責任。つかう責任。」というゴールがある。これは、地球環境の持続可能性に対するモノをつくる側の製造者の責任、モノを使用する側の生活者の責任を明確にしようというものだ。さらにいうと、私たちの暮らしの中で、地球環境に対する「説明責任」をつくる側もつかう側も、しっかりと果たしていきましょう、ということだ。

この説明責任、SDGsに限らず、私たちが仕事をしていく中で必要となる場面が出てくる。人が何かをやる際には、実行するわけ、理由が大なり小なり必ずある。「それを、なぜやるのか」ということである。なぜ、それをやるのか、それをやったのか、を自分以外の人に説明した上でやるという場面は、日頃の暮らしの中では決して多くはないと思うが、その案件が重要になればなるほど、実行するわけ、実行したわけを説明する場面が出てくるのではないかと思っている。例えば、行政が何か大きな事業に取り組むとき、政治家が重要な意思表示をするとき、国際的には今回のウクライナ戦争のような「戦争の大義(侵略の理由、開戦の理由)」などという限りなく重い説明責任もあつたりする。また、実行する人に与えられた責任が大きければ大きいほど、その説明の必要性、重要性は高まってくる。だからこそ、説明責任だ。

この説明責任、実は何かをやる時だけではなく、何かをやらないうという場合の説明責任というものもあるのではないだろうか。「今は、こういう状況だから、やりません」というような説明責任が出てくる場面も確かにある。

市長としての仕事や意思決定については多くの場合、説明責任が必要になってくると認識している。議会の場、公式の記者発表、そのほか、さまざまな情報発信ツールを使った政治活動に関する発信など、それぞれ、その内容によって、あるいは対象は誰かということによっても、しっかりと考えて、最も良い発信手段を使い分けながら、最適な方法でわかりやすく説明責任を果たしていかなければならない。これからはしっかりと、説明責任を果たしていきたい。